

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』.

第 48 回 みんな、めでたく「大リーガー」

プロ野球業界が混乱している。近鉄とオリックスが合併、ダイエーとロッテも、どうしようか...なんて話題が、毎日スポーツ紙の紙面を独占している。

近鉄は平成 14 年度の連結決算で 504 億円の最終赤字を計上、そのうち球団経営で約 30 億円超の赤字である。主催試合 1 試合当りの平均観客数第 1 位の巨人が、53757 人。近鉄は約 20500 人、オリックスは約 18200 人と、近鉄が 2.6 試合、オリックスに至っては 3 試合やらないと、巨人の 1 試合分の観客を集めることが出来ない計算になる。

ダントツの野球王国アメリカの大リーグと比べると、根本的にシステムが違うようである。絶大なる権限を持つ「大リーグ機構」全国放送の放映権料は機構が管理し、全球団に配分、年俸総額が一定額以上の金持ち球団からは、オーバー分から一定額を徴収し、経営難の球団へ回す制度もある。関連グッズのロイヤリティは全て機構が一括管理し、全球団に配分する。実質的な権限を「オーナー会議」が持ち、富める球団のみが儲かるシステム、それを経営努力と称し、業界全体的なことはそれぞれに任すよ...そんな日本のプロ野球システムとは、随分違った価値観がベースにあるように思えてならない。

大リーグの経営システムの進化の背景には、厳しいビジネス競争をしながらも、魅力的な試合を提供するため、球団の魅力を均衡させると言う思想がある。改革の努力を続けなければ、他の人気競技にファンを奪われてしまうためである。

年間観客動員数約 2300 万人を誇る、プロスポーツ界の雄・日本のプロ野球、このままでは明らかにファン離れが進んでいくだろう。もっと、単純に面白く、わくわくするような、ドラステックな改革を、多くのファンが望んでいる。

朝日新聞に、巨人軍を 2 つに分けて、パリーグに加えたら...なんて提案が出ていた。めちゃくちゃな、飯島私案。... いっそうのこと、韓国や台湾のチームと一緒に「アジアリーグ」を作り、大リーグの勝者とワールドリーグを開催する、なんて案はどうだろう。あるいは、大リーグの地区として「ジャパン地区」とし、地区優勝したチームは、大リーグの一員としてワールドリーグに参加する。そうすれば、日本の優秀な選手が、わざわざアメリカの大リーグに行く必要はなくなり、みんなめでたく「大リーガー」である。...

野球大好き日本人は、まだまだ、たくさん存在している。そんなファンの「声なき声」を、大新聞社の偉そうな「おっさん」は、聞こえているのかしら？自分さえ良ければ...という発想で懲りた、バブル時代の再来だけは、避けなければならない。何とかしなければ、そう願いつつ、ペンを置く。